

# 統計データ・テキスト情報から横浜市 の新たな魅力を探求する

---

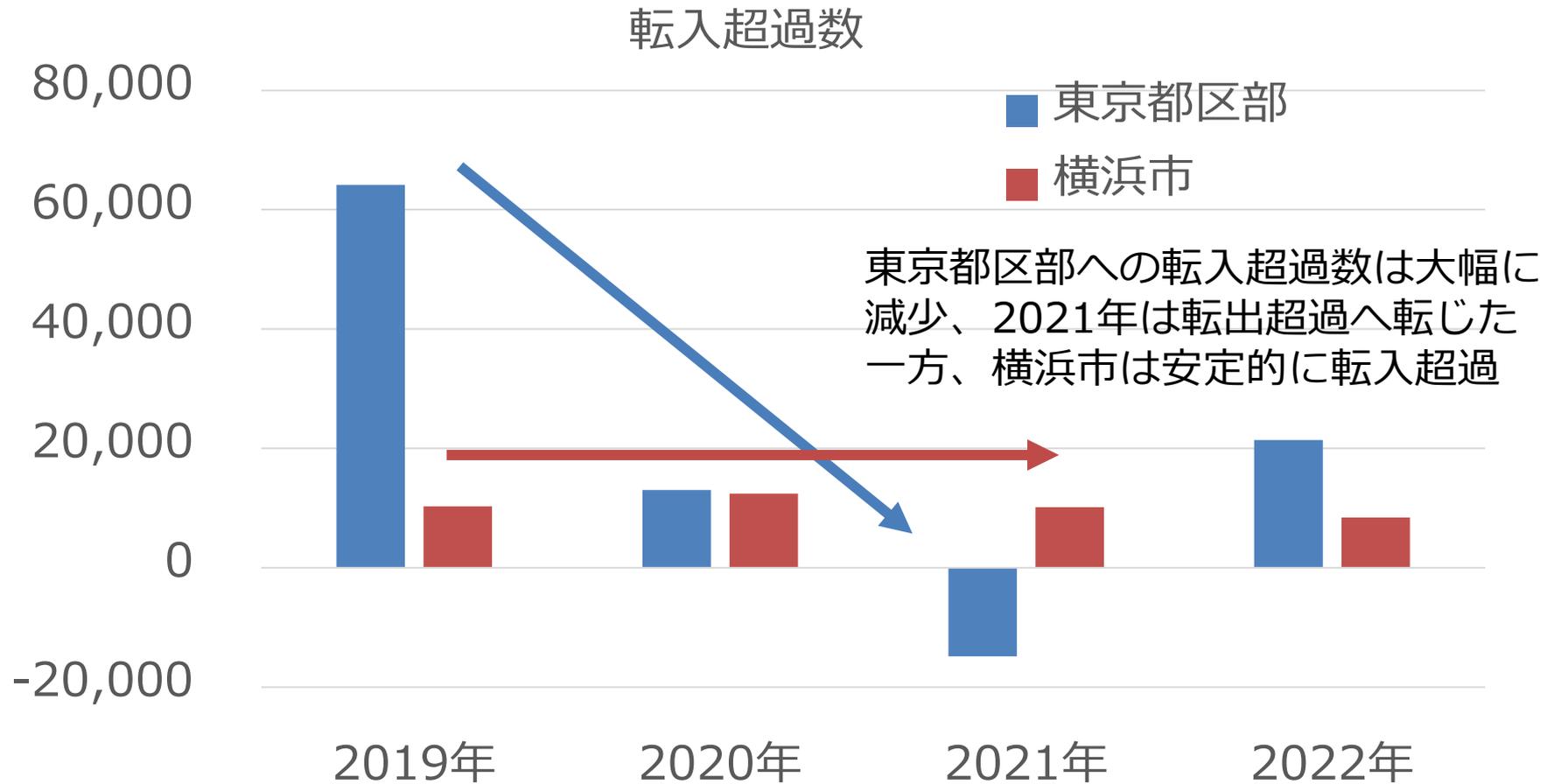
総務省統計研究研修所  
永井 恵子・横溝 秀始

# ワークショップの背景と目的

---

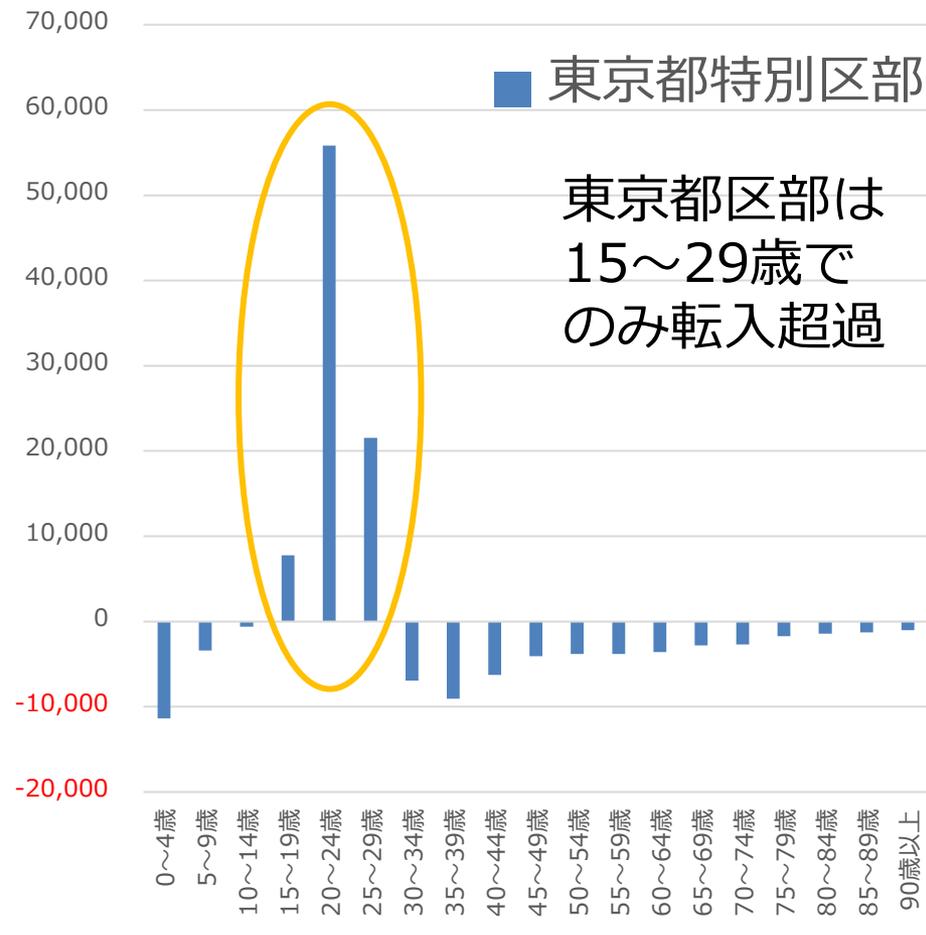
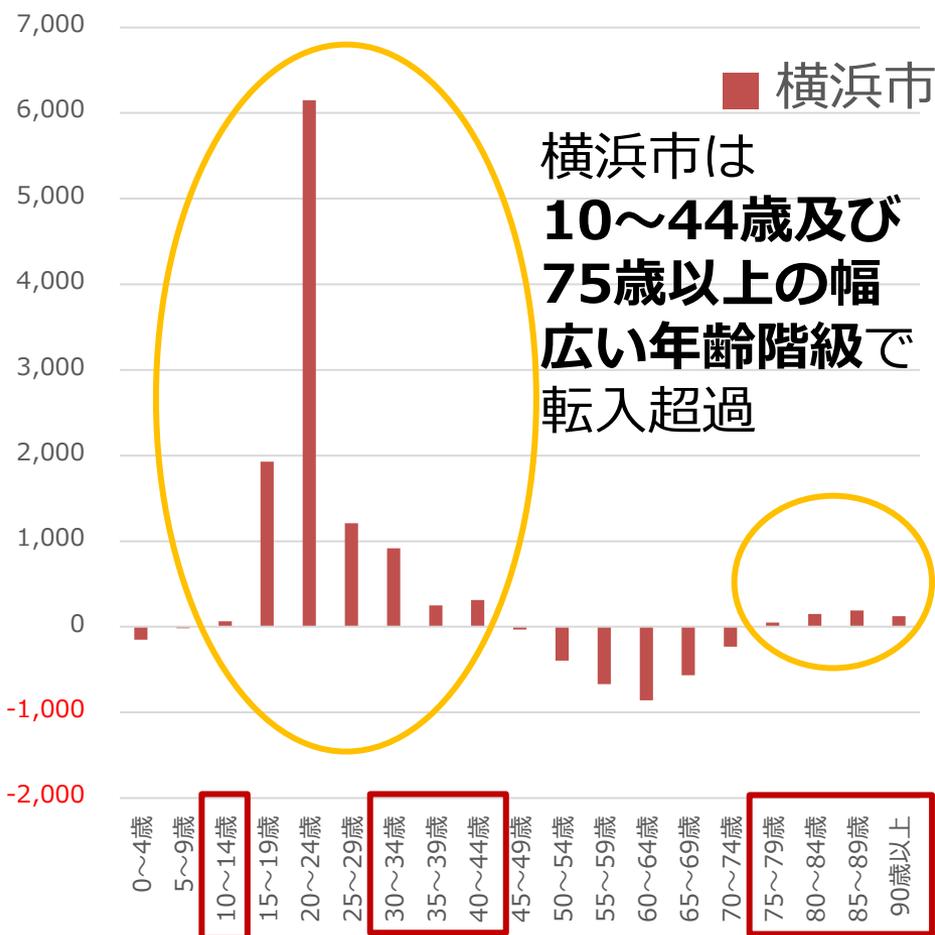
- 新型コロナウイルス感染症流行下で東京都区部への転入超過数が大幅に縮小、転出超過に転じる中、横浜市の転入超過数は安定的に推移
- 転入者の属性から、横浜市の魅力を探り、横浜市が人の集まる魅力的な街であり続けるための方策を考える

# 転入超過数の推移



出典：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

# 年齢別転入超過数（2022年）



ここに横浜市固有の  
魅力があるのでは

出典：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

# ワークショップ概要～ペルソナ設定～

横浜市に転入する人物・家族像として3つのTypeを設定

□ 進学・就職・転職に伴う移動（15～29歳）

⇒都市部共通

進学先や就職先の豊富さ など

□ 結婚・出産・子育て期（30～44歳）

子育てのしやすさ、生活の便利さ など

□ 高齢期（75歳以上）

医療・介護施設等の豊富さ、生活の便利さ など

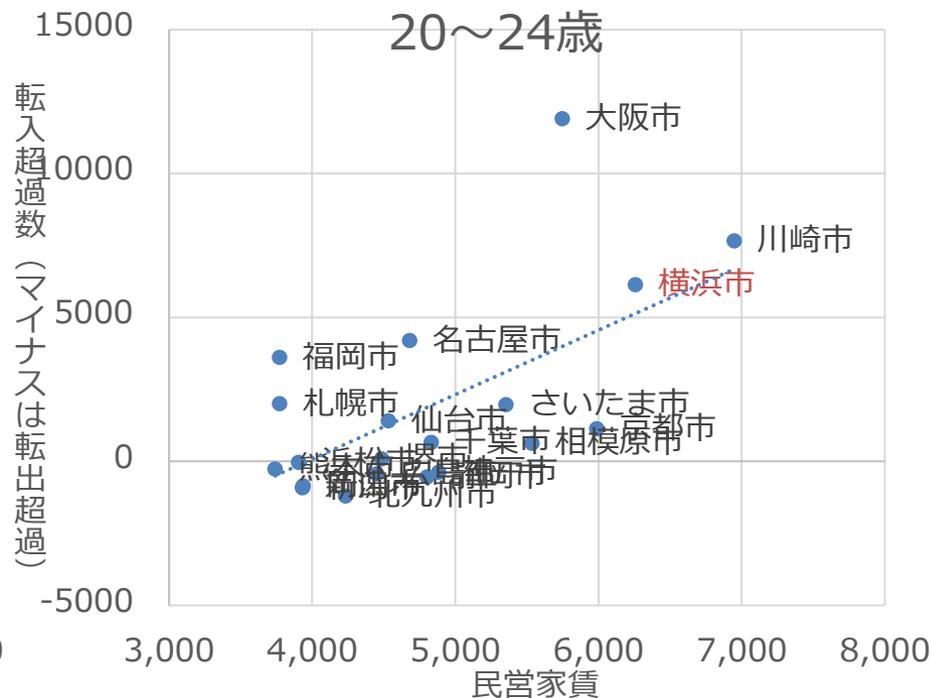
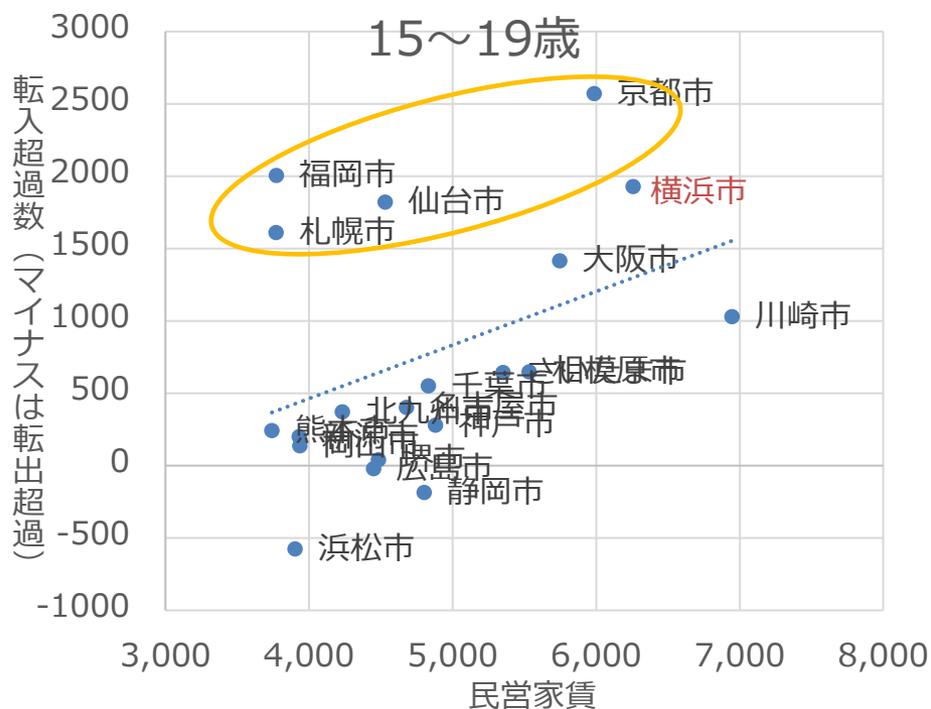
東京都区部と比較した場合の横浜市固有のペルソナ

# ワークシヨップ概要～ペルソナ設定～

## □ 進学・就職・転職に伴う移動（15～29歳）

⇒都市部共通

家賃（≒都市化、便利さの指標）との関係を見ると、  
15～19歳では別の軸（進学先の豊富さ など）がありそう



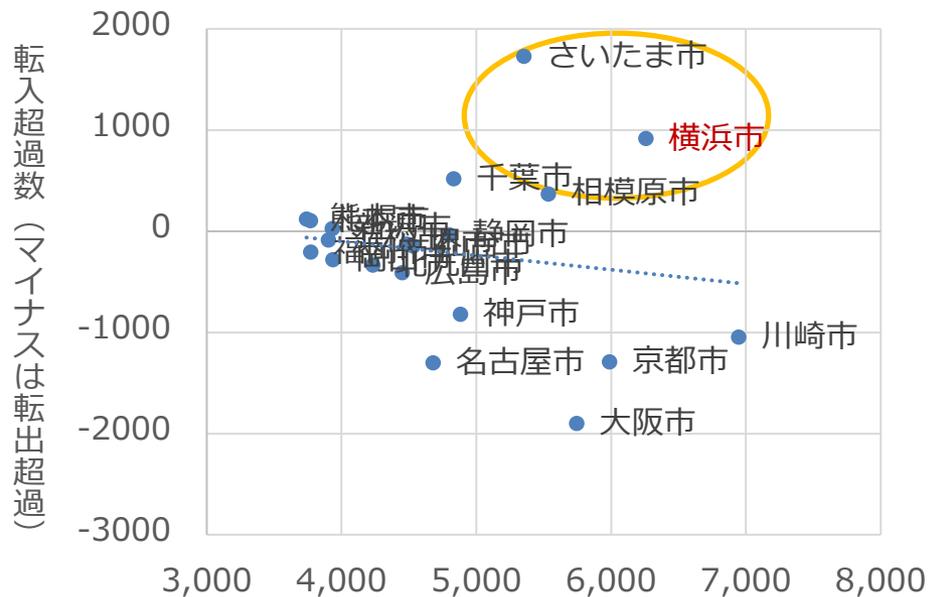
出典：住民基本台帳人口移動報告（総務省）、小売物価統計調査（総務省）

# ワークシヨップ概要～ペルソナ設定～

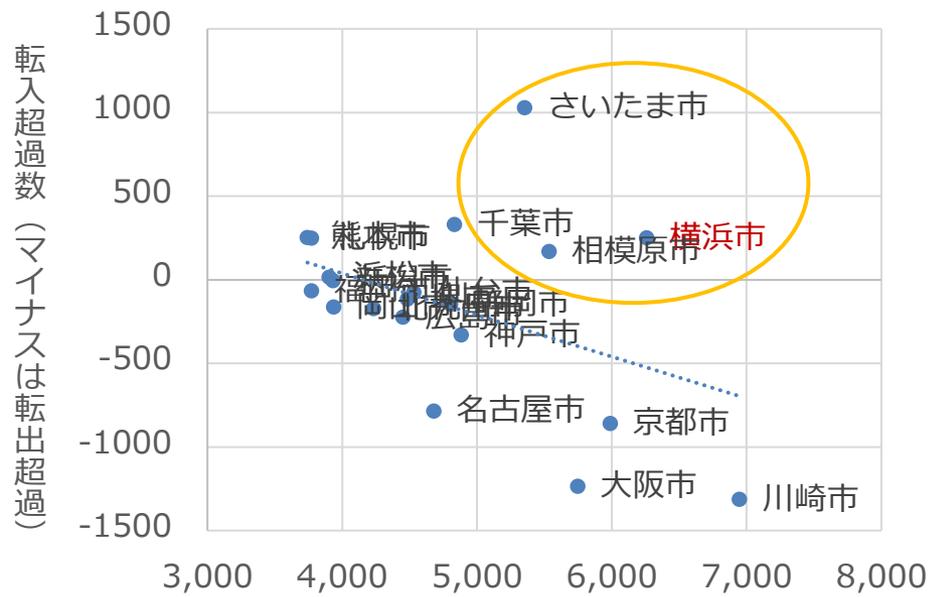
## □結婚・出産・子育て期（30～44歳）

家賃（≒都市化、便利さの指標）との関係を見ると、家賃の高い都市部からの転出が想定されるが、一方で、子育てのしやすさ、など他の軸もありそう

30～34歳



35～39歳



出典：住民基本台帳人口移動報告（総務省）、小売物価統計調査（総務省）

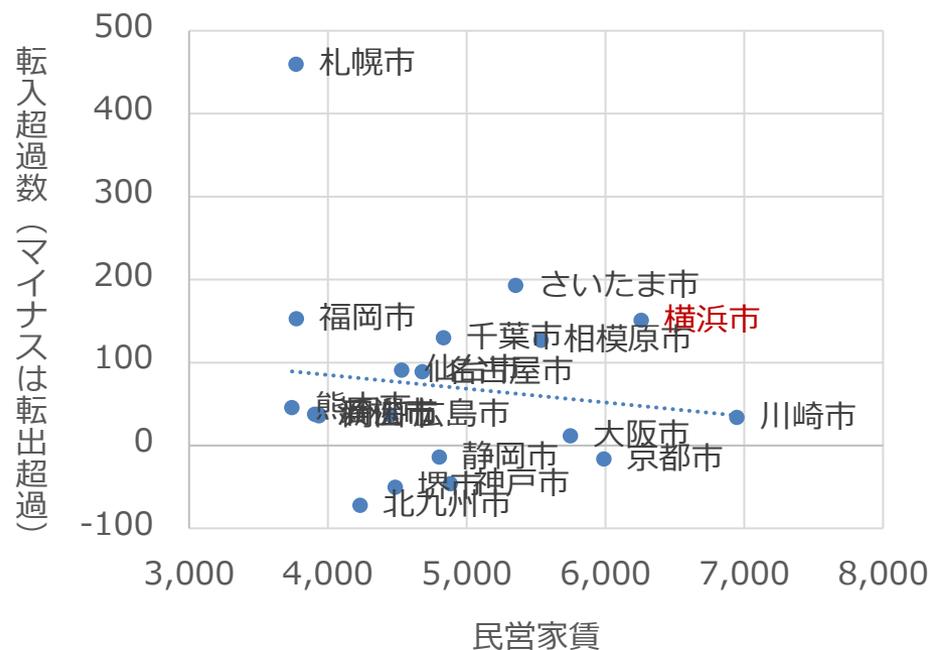
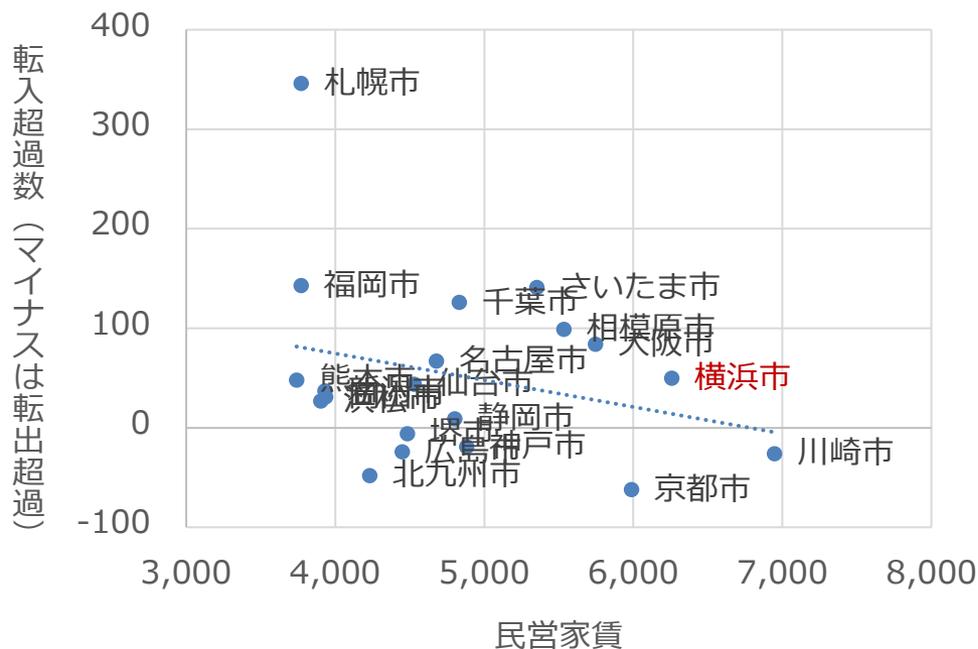
# ワークショップ概要～ペルソナ設定～

## □ 高齢期（75歳以上）

家賃（≡都市化、便利さの指標）との関係を見ると、家賃の高い都市部からの転出が想定されるが、一方で、医療・介護施設等の豊富さ、など他の軸もありそう

75～79歳

80～84歳



出典：住民基本台帳人口移動報告（総務省）、小売物価統計調査（総務省）

# ワークシヨップ概要～ペルソナ設定～

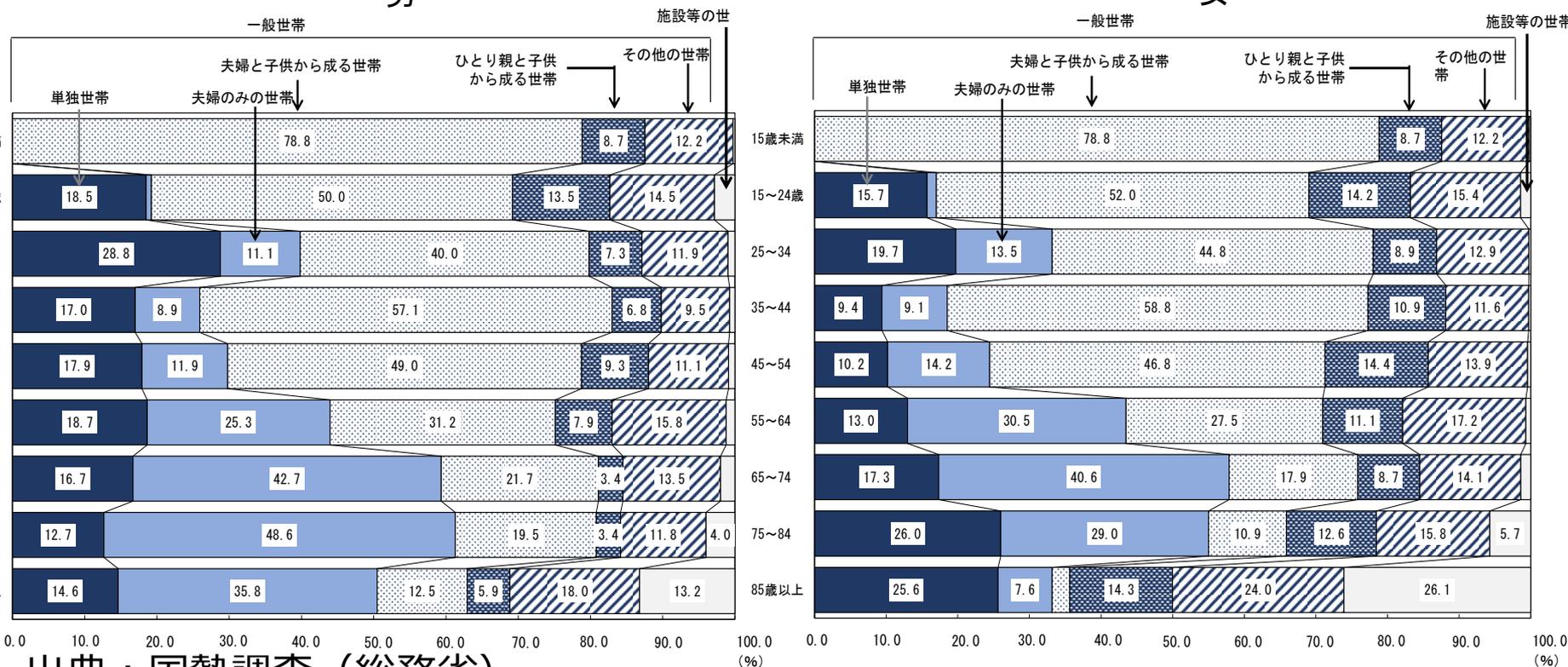
## 世帯の種類・家族類型、年齢、男女別世帯人員の割合（2020年）

ライフステージの変化により、住まい方も変化

「単独世帯」の割合が最も高いのは、男性は25～34歳、女性は75～84歳  
85歳以上になると、施設等の世帯の割合が上昇

男

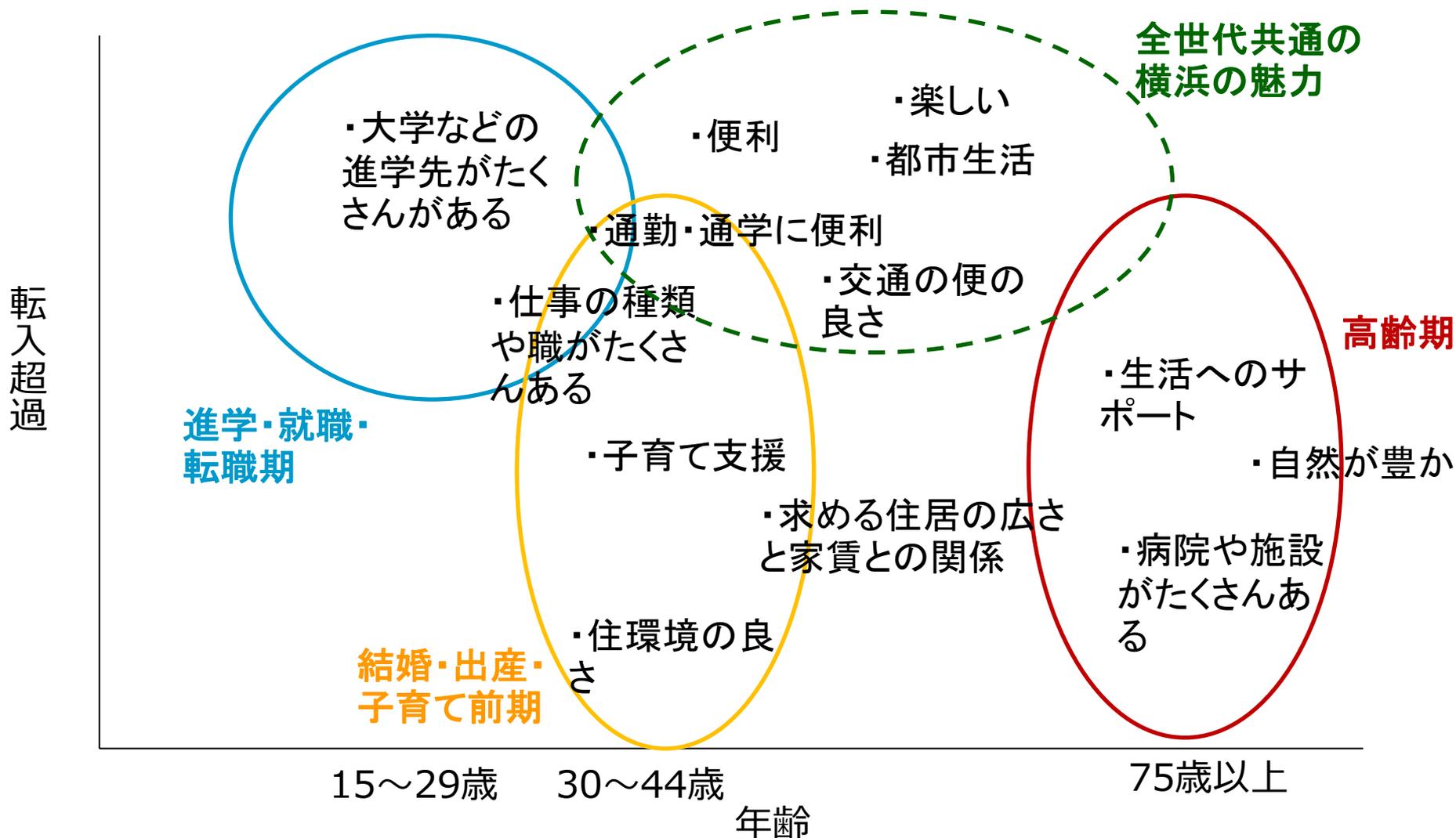
女



出典：国勢調査（総務省）

# ワークショップ概要～ペルソナ設定～

## □ 年齢と転入超過との関係からペルソナを考える



# ワークショップ概要～可視化手法～

---

データ分析レポートの作成

- 公的統計データの可視化の活用
- Google Public Data Explorerから得られる地域別データの活用
- Google Mapから得られる歴史的建造物、商業施設や公共施設などの情報の活用
- User Local社が提供するテキストマイニングのツールを活用して横浜市と関連するワードの検索

# ワークショップ概要～可視化手法～

Word cloud（単語の出現頻度を可視化）の例

- 「横浜市 魅力」という検索ワードで表示された、上位15件程度のサイトの文章データより作成

